

2009（平成 21）年度事業報告書

2009（平成 21）年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 おきなわCAPセンター

1 事業の成果

昨年に引き続き、ワークショップの申し込みが減少していたところ、下半期に浦添市と豊見城市から委託があり、昨年度を上回る回数のワークショップを提供することができた。その中でも昨年度実施出来なかった中学生ワークショップを 8 回、高校生に 2 回実施できたこと、初のスペシャルニーズプログラムを 4 回実施できたことは評価できる。

今年度は生命保険協会の助成を受けたことで、中頭地区 10 市町村で主催ワークショップを開催することができた。また、連合・愛のキャンパ、ろうきんなどの助成金でも各種ワークショップを幅広く提供することができた。

2 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施回数	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子どもへのCAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業	CAP小学生ワークショップ	70回	県内各小学校	約20人	1953人	2,813
	CAP就学前ワークショップ	10回	県内各保育所・幼稚園		243人	
	CAP中学生ワークショップ	8回	県内各中学校		306人	
	CAP高校生ワークショップ	2回	県内高校		41人	
	その他子ども向けワークショップ	7回	県内特別支援学級・養護施設		88人	
大人へのCAPワークショップ提供事業	CAP大人ワークショップ	28回	県内各学校、保育所、幼稚園	約20人	1009人	

	CAP教職員ワークショップ	5回	県内各学校		358人	
	その他 学校・保育園以外 連携機関	9回	連携機関 公民館・ 児童課等		255人	
ワークショップ提供のための人材育成事業	県外研修会	1回	熊本		1人	66
	県内研修会	2回	てんぶす		24人	
	定例会	月1回	女性センター		120人	
	SNP養成講座	1回	ているる	2人	8人	
子どもへの暴力防止についての学習・啓発事業	公開講座					95
	① SNP紹介	1回	女性センター	4人	20人	
	② 講演会	1回	ているる	3人	20人	
	主催ワークショップ(連合沖縄の愛のキャンパ助成)	10回	県内 女性センターなど	15人	104人	
	生命保険協会助成事業(中頭地区)	10回	中頭地区 10ヶ所	15人	199人	
ミニ講座	4回	武道館	5人	50人		
地域ネットワーク事業	地域ネットワーク会議	5回	児相・児童 家庭課・女性センター など	5人	約20人	7
会報の発行事業	会報の発行	年3回	事務所	5人	会員他関係 機関750人	134
	ホームページ	適宜			不特定多数	
その他、目的を達成するために必要な事業	「CAP生活」「気持ちの本」「あなたが守る～」販売	適宜	県内	約20人	関心のある 大人	547

平成21年度事業について

(1) CAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業

上半期のワークショップの依頼は少なかったが、浦添市と豊見城市からの委託事業や、ろうきんの助成金により、下半期で昨年度を上回る数まで持ち直すことができた。

子どもへのプログラム提供事業においては、小学生、高校生対象のワークショップは計画を下回った回数となったが、中学生、就学前においては目標を達成することができた。また、特別支援学級へのスペシャルニーズプログラムを4回実施したことはCAPセンター・JAPANからも評価された。

就学前のワークショップに関しては、主催ワークショップがきっかけで童夢幼稚園や白百合保育園から依頼がきて実施に至った。また、真和志支所内就労支援センターや、まちなと児童センターの学童クラブ、中城村や恩納村の子育て支援センター、愛隣園など地域の連携機関でのワークショップも実施できた。

大人へのプログラム提供事業は、それぞれに計画を下回る回数になったため、今後は各連携機関との共催や早めの呼びかけなど、ワークショップ開催に向けての工夫が必要である。

(2) 子どもへの暴力防止についての学習・啓発活動

今年度は、臨床ケースマネージャーのてい子・与那覇・トゥーシーさん（在アメリカ）を講師に「子どもに寄り添い、支援する！」講座（11月5日）を実施。

生命保険協会の「子育て支援団体に対する助成活動」の助成を受けて、中頭地区10市町村での大人ワークショップを行うことができた。同事業の実施にあたり各市町村役場や地域の子育て団体との連携ができたことは大きな成果である。また、リーフレットも新しく製作することができた。

そのほか、「連合・愛のキャンパ」により、主催ワークショップ「子どもたちのために今日からできる7つのこと」を開催（毎月28日）。知的障害のある子どもへのCAPプログラム（スペシャルニーズプログラム）や、就学前プログラム、デートDV、中学生プログラムなど、幅広く大人ワークショップを提供できた。

ているるフェスタでは、メンバーの島袋容子さんを講師に護身術講座を開催（9月26日）。また、ミニ講座を4回実施して（11月26日、12月17日、2月18日、3月11日）CAPメンバーがそれぞれの得意分野を活かして、子育て中の母親を対象に元気を引き出すプチ講座を開催した。

(3) ワークショップ提供のための人材育成事業

熊本県での「九州・山口 CAP グループのつどい」(7月18、19日)に仲村宮子が参加。この熊本での研修報告を受けて、大阪教育大学メンタルサポートセンターの野坂祐子さんを講師に、同じテーマで「学校危機の概念と危機対応の基本」メンバー向け研修会を実施(11月12日)。また、日本NPO協会の新田恵理子さんによる「活動をよりよくするための改善点発見!ワークショップ」を実施。おきなわCAPにとってメイン会議である定例会のあり方を中心に話し合い、今後の活動に活かされる有意義な研修会であった。

(4) 地域ネットワーク事業

要保護児童対策地域協議会代表者会議への参加、「ているるフェスティバル2009」の実行委員会や「すこやか親子おきなわ2010推進協議会」、「行政とNPO等との手引書作成支援事業ワーキンググループ」にも委員として参加した。また、8月には東京での「母と女教師の全国大会」に糸数が参加。

(5) 会報等の発行事業

通信は年3回発行。会員を積極的に増やすために関係者へ通信の送付に力を入れた。またホームページをさらに充実させ、講座の案内や報告など、インターネット上での情報発信にも努めた。

(6) その他、目的を達成するために必要な事業

昨年度補助金で作成した「CAP生活」を、沖縄教版を通じて広く県内書店にて販売。また、今年度から始めた絵本の販売(気持ちの本、あなたが守るあなたの心あなたの体、森田ゆり作)は、大人ワークショップで好評な売れ行きである。大人ワークショップに参加した人が、後日「人権について」や、「気持ちを表現すること」について、子どもと一緒に考えるツールとして活用してもらっている。